聖德太子釋氏憲法

十五に曰く外道は地獄佛土の說と議して之を方便の說と謂ふ復方便の名目を議して無を謀て有と作の目と謂ふ又僧者有て同く見る汝ち何ぞ梵學を疎きや其方便の名目は小より大に之き大より佛に之く其階名を標す無きを作りて有りと爲れは是れは焉れ僞詐耳即人を欺くに非すや或は僞詐の說を造らば天仙神鬼何ぞ聖主世尊の說を尊崇せ。

特56
961

顯本の華菓序

本勝院日至

顯本の妙戒を持て南無妙法蓮華經を信念口唱する人の功德と無量無邊にして佛の御智惠を以も說盡がたし故に經に說て云佛の智惠を以多少を籌量するに其邊を得す云云而れは凡夫の我等が短き舌拙き辯を以て此功德を說んとそれは雲の月を隱か如く塵の鏡を曇らすに似て殊勝に目出度功德を却て覆ひ隱すあらんと猶豫せしに佛は又難持を擧て此は爲難事より宜く大願を發すへし諸の餘の經典數恒沙の如し此等を說と雖も未爲難とそるに足らす○若佛の滅後惡世の中に於て能此經を說ん是則爲難事又善男女等有て佛の壽命長遠なることを聞て乃至一念も信せ〻其功德限量無し乃至萬億劫に五波羅蜜を修行する功德よりも百倍千倍百千萬億倍勝れたり

内閣文庫

と說て此經は一向に說されは亦佛の御本意に戻り奉らん加之猶日本國の人民は足下を捨て寶珠を知ず蹈踏り黃石赤瓦を懷き取り珠を得たりと喜ふ如く長壽萬歲不壞樂の大益垂る妙經の壽量顯本不可思議を識者曾てあきのみか却て夢中の假樂を戀慕ひ只徒に邪神死佛を信仰し此上あしと有難がり容易得らるゝ現當二世の幸福を亡失する者多からん當に知へし此妙法を吾日の本の國人に賜りたること經義明らかあるに我國人が長壽萬歲の妙益に沾はさるは遺憾に堪へ故に嶷々たる顯本山の一塵を拾ひ湯

〻たる妙法海の一滴を汲玉石不辨死活顚倒一目出度法を嫌ひ去り延喜の懸き死物ゐ執着ゑる迷の心を晴さんと欲し尠か茲ゐ壽量顯本不可思議の大御利益を示すへし

抑顯本法華の妙戒を持と申て別段六ゥ敷事ゅもあらず唯信心の一行にて持たるゝ妙戒也夫釋尊一代五十餘年の說教たる七千餘卷の經々は彫しけれども其本を尋れゞ只一法より說出されたる物ゐり則ち無量義經に從一出多と說れしは是也扨其一法とは無始久遠の大昔より釋尊の內證に秘藏し給し事の一念三千の南無妙法蓮華經ゐり故に從多歸一と申て亦七千餘卷の一切經を本の一法ゐ攝取んと思召て說起さるたる經を法華經と申ゐり然るゅ罪深き御弟子達は此御經を聞を嫌ひ法華經第一卷方便品の御時其座を立去りし者既ゐ五千人あり故ゐ釋尊も末其機の熟せざるを察し且く內證の妙法を說事を猶豫し但浮草の浪ゐ漂て定め無が如く當分の說を設て確と說極め給ずして有しゅ彌勒菩薩等の大道心の人々唯顯說之唯顯說之唯顯說之と再三再四渴仰して止ず此に於て釋尊初て無始久遠より秘藏し給へる內證の正法事の一念三千南無妙法蓮華經を說顯し給へり此を說れし御經を法華經の壽量品と申奉る顯本法華とは則ち是ありされは此顯本の妙法は從一出多從多歸一と示せる本原の主法ゐるが故一代五十餘年の一切經々は悉く此妙法を親として生れ出て亦此妙法に歸入と譬は

の川流江河の諸水は本海より出で、亦大海ゅ歸入が如し故ゅ實助佛法と申は唯此妙法ゅ限る經ゅ十方佛土の中には唯一乘の法のみ有て二も無し亦三も無しと說れしは則此義也依て釋尊及十方三世の諸佛と申も皆此一大妙法より出生致されたり故ゅ釋尊無始久遠より積給へる六波羅蜜の御因德世々番々ゅ無量の衆生を濟度ゐし給へる四德波羅蜜の御果德悉皆顯本法華の妙法に具足する也故に一度信し一度唱る時は唯一口ゅ一切經を續奉る功德備る此れを一行一切行と申亦復一切の諸佛妙法の唱音を聞給ふ時は赤子の乳母を慕ふが如く來臨影向して法味を愛し行者を守り給ふ妙法口唱は諸佛の命を續故諸佛亦其人を守ると云ふは是也猶亦神明も妙法の唱音を聞て隨喜し給ふ既ゅ傳教大師法華經を講し給ひしかは八幡大神は紫の法衣を布施し給ひ空也上人法華經を讀給ひしかは松尾明神も寒風を防くと喜れて候此等は像法の時にして未顯本妙法蓮華經弘まらさる已前ゐれは眞實の妙法にあらざれ共法華經の一分ゐれは八幡松尾の神々も御隨喜淺からず況や顯本眞實の妙法ゅ於てをや斯目出度妙法にて候へゞ深く信して毫も疑を容さる時は其人の信念と慈悲と妙法の萬德と此三の物不思議と和合して唯一躰とゐり妙法躰內の御功德を我等が即座ゅ受得ことは水淸で月宿り草木雨を得て自然ゅ花咲菓成が如し扨戒とは非を防き惡を止る義ゐして此顯本の妙法の或は洩れたる功德あらん歟と疑ひ或は諸經ゐ並て行し或も餘の法も此法と等しき功德あり

と思ひ諸經諸佛を取々に信するを極惡大非と申て是を堅く禁制する也方今末法て本門の本尊と本門の題目との外は去年の暦の如くよして所詮あき物と心得決して此に肩を並べる物一も有べからずと堅く信ずるを謗非を防き疑惡を止むと申是則顯本法華の妙戒あり問顯本法華の妙法蓮華經と具わる久成釋尊の四德波羅蜜とは何如あるものよて候や願くは示し給へ

答顯本の妙法に備わる四德波羅蜜とは先つ第一は長壽不死還年不老の德也日蓮聖人御祈禱經に此功德を示されたり曰壽量之大藥師種智還年の藥を服し給へば老して而も少きが如く良藥付屬之地涌の大士は久く常住不死之方を稟て少ふして而も老よ似たり是故よ我等深く此旨を信ぜ父母既ゐ然り子豈疑ふ可ん哉已上文の意と壽量教主の釋迦佛ば不老不死の良藥たる妙法を所持し給へる故五百塵點の長劫を經玉へ共少しも老衰せざるを以て若き御形を示し亦此良藥を授かり給ひし上行等の菩薩は五百塵點長時の齡を經たれ共死せざるを以て老たる姿を顯し給ふ是則ち釋尊と上行等の菩薩と互ゐ不老不死の功德を影畧して一方づゝ顯し給ふ也是故ゐ日蓮が弟子檀那は不老不死の妙法たることを深く信せよ既よ釋尊上行等の父母と眼前に不老不死の功德を證得し給ふ故に日蓮等の子孫は此良藥を信持せる故亦同し功德を得て不老不死の身とおらん事近きに在り努努疑ふ可からずと也第二に金剛不壞樂の德也藥王品よ此功德を說玉く此經は能一切衆生をして諸の苦惱を離れ令玉ふ此經は能大に一切衆生を饒益して其願を充滿せしめ玉ふ清涼の池の能一切諸の渴乏の者に滿るが如く寒き者の火を得たるが如く裸かなる者の衣を得たるが如く商人の主を得たるが如く子の母を得たるが如く渡りに船を得たるが如く病ひに醫を得たるが如く暗に燈びを得たるが如く貧しきよ寶を得たるが如く民の王を得たるが如く賈客の海を得たるが如く炬の暗除くが如く此法華經も亦復是の如し能衆生をして一切の苦一切の病痛を離れ能一切の生死之縛を解か令玉ふ已上此文の中に一切苦と說れしは地獄の燒身摧骨の苦餓鬼の飢渴の苦畜生の殘害の苦脩羅の鬪諍の苦人間の四苦八苦天上の五衰の苦及羅漢菩薩の德薄垢重未免無常の苦等よして粗苦微苦の一切を離るゝ也又一切病痛と說れしは地水火風の四大より生ずる四百四種の身病及貪瞋癡の煩惱より起る八萬四千の精神病を悉く離るゝ也又一切生死之縛と說れしは分段生死と申て身躰生滅の苦(是れは惡業の報ひに因て苦の身を造り出し暫時にして亦其身を破滅され此よ生じて彼よ死し彼よ生じて此よ死ー是の如く展轉して止まざる苦を云也)次に變易生死と申て精神生滅の苦(是れは煩惱の垢重なりて眞實の覺よ至らざる故無量劫の間習學ーて漸く極めたる一つの覺悟も忽ち壞れ移りて精神定まらず或は起り或は滅し展轉して止まざる苦を云也)此二生死の業縛迷縛を解脫るゝ也是則ち拔苦の益なり又其

願を充滿すと說れしは希望自在にして大樂を得ること也現文に十二種の譬を以て喩し玉ふ心を注いて熟拜すべし是れ則ち與樂の益なり而して此大樂長劫にも破れざること金剛の如し故に次下の文云く火も燒こと能わず水も漂すこと能わず金說し給ふ也此れ顯本法華の利益也故に宗祖の言らく此藥王品は正意に壽量品を修行すべき樣を說き傍わらに方便品を修行すべき樣を說れし品也云々（趣意）

第三に十法界我有自由の德也此德を現一切色身三昧と云ふ法華經に此三昧を示て曰或は梵王の身を現し或は帝釋の身を現し或は自在天の身を現し或は大自在天の身を現し或は天大將軍の身を現し或は毗沙門天王の身を現し或は轉輪聖王の身を現し或は諸の小王の身を現し或は長者の身を現し或は居士の身を現し或は宰官の身を現し或は婆羅門の身を現し或は比丘比丘尼優婆塞優婆夷の身を現し或は長者居士の婦女の身を現し或は宰官の婦女の身を現し或は婆羅門の婦女の身を現し或は童男童女の身を現し或は天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等の身を現し而も是經を說く諸有の地獄餓鬼畜生及ひ衆苦難處皆能救濟す乃至王の後宮に於ては變して女身と爲て而も是經を說く○是の如く種々に變化し身を現して此娑婆國土に在て諸の衆生の爲に是經典を說く神通變化智惠に於て損減する所なし○十方恒河沙の世界の中に於ても亦復是の如し若聲聞の形を以て得度すべき者には聲聞の形を現して而も爲に法を說く辟支佛の形を以て得度すべき者には辟支佛の形を現して而も爲に法を說く菩薩の形を以て得度すべき者には菩薩の形を現して而も爲に法を說く佛の形を以て得度すべき者には即佛の形を現して而も爲に法を說く是の如く種々に度すべき所の者に隨て而も爲に形を現ず乃至滅度を以て而も得度すべき者には滅度を示現す○善男子其三味とは現一切色身と名く已上斯の如く我か思ひの儘に形を現し自由自在の運動を成そなとを得る功德也是則ち顯本法華の功德なる故正しく壽量品を修行すべき樣を說れし所の藥王品に云我れ現一切色身三昧を得たるは皆是れ法華經を聞こと得るの力なり云云

第四に色心土淸淨の德也此功德を法華經に說て云く若法華經を持んは其身甚た淸淨なること彼の淨瑠璃の如くにして衆生皆見んと憙わん又淨く明らかなる鏡に悉く諸の色像を見るか如く菩薩淨身に於て皆世の所有を見ん唯獨り自ら明了にして餘人の見ざる所ならん三千世界の中の一切の諸の群萠天人阿脩羅地獄鬼畜生是の如き諸の色像皆身中に於て現ぜん（已上色身淨也）又云く是人の意ろ淸淨に明利にして穢濁なく此の妙なる意根を以て上中下の法を知り乃至一偈を聞に無量の義を通達し○其の六趣の中に在る所念の若干種法華を持たん此報は一時に皆悉く知らん○法華經を持つ者は意根淨きこと斯の若くならん（已上心意淨也）又云く我壽命長遠なるを說くを聞て深心に信解せば則ち爲れ佛け常に耆闍崛山に

在して大菩薩諸の聲聞衆の圍繞せると共に説法するを見又此の娑婆世界其地瑠璃にして坦然平正に閻浮檀金を以て八道を界ひ寶樹行列し諸臺樓觀皆悉く寶を以て成して其菩薩衆咸く其中に處せらる見ん(已上國土淨也)是の如く身も心も土も瑠璃黄金明鏡の如く淨くして穢れなく濁らざるは顯本法華の功德なり故に壽命長遠の説を聞て深心信解と金言し給ふ亦宗祖聖人の言く日蓮が一門は正直に權教の邪法邪師の邪義を捨てゝ正直に正法正師の正義を信ずるが故當躰の蓮華を證得し常寂光當躰の妙理を顯すみとは本門壽量の教主の金言を信して南無妙法蓮華經と唱ふるか故也云云

當に知るべし顯本の妙法には實に不思議の功德を含める故謗法と疑ひの邪惡を止めて只一心に信受する時は知らず量らず目出度功德を其身に領得し盡ざる快樂を掌握する也故に宗祖曰く一念三千を識らざる者にて佛け大慈悲を起して妙法五字の袋の中に此珠を裹んで末代幼稚の頸に懸しめ玉ふ又曰く釋尊の因行果德の二法は妙法蓮華經の五字に具足す我等此五字を受持すれは自然に彼の因果の功德を讓り與へ玉ふ云云又妙樂大師は行淺功深以顯經力と釋せり言ふ意は修行は信心の一行なれば至て淺けれ共受くる功德は廣大無量なり是れ何んが故ぞ經力强きの致す所なり豈誰れか之を聞て顯本法華に隨喜せざらん耶特に第一の段に述たる不老不死の功德は死佛亡神を信ずる延壽の惡き妄信の人々には注目すべきことなり早く迷の醉を醒し我慢を翻して深く考へ給へ日蓮聖人曰命と申す物は一身第一の珍寶なり一日ありとも之を延るならは千萬兩の金にも過れたるべし法華經の一代聖教に超過して殊勝と申は壽量品の故ぞかし閻浮提第一の太子なれとも短命なれは草よりも輕し日輪の如くなる智者なれども夭死すれは生たる犬よりも劣れりと示し給ふ此御判の意は壽量顯本の妙法たる不死の良藥あればこそ法華經も諸經中王最爲第一の讃れは有べかれとの御義也されは誰れか疑わん顯本法華妙法不思議の御利益とは諸經諸佛諸天等の慈悲も譬ひも及ばざる我等が一身第一の珍寶たる命根の仇に墓なき壽命をば信の易行で翻し永劫不死の萬歳樂を讓與し賜わる利益なることを斯る目出度是好良藥の妙法は壽量品を除きては七千餘卷の一切經には夢にも説かざる祕法なり故に壽量品に如來祕密神通之力と説れたり天台は是を釋して言く昔し説ざる所を名づけて祕とす唯佛けのみ自ら知しめすを名づけて密とすと示されたり況んや佛敎以外の書籍をや深く察し玉へよかし世間の人人が賴となせる神佛は皆悉く幾千年の其昔し死し去り玉へる神佛なり是を名殘の神無常の佛と申なり既に願を受る神佛自らですら未無常を免れず生死を離れ給わざれは爭でか願者が壽命を常住不滅せしむるみとの成るべきぞ是を知らずに世の人人迷の心の解ざる故死佛邪神を妄信するは實に延壽の惡き隨一なり凡そ人々の希望願願は區々なれ共千希萬望の土臺となる物は唯一つの

壽福なり若し此土臺を失へは無量の望も樂みも一時の泡と消失て更に跡形なきぞかし譬は寒中に厚き氷を其上に望に任せて艶しき屋形を造りて樂しが春の朝たに成ぬれば其家に住いし樂みは却て苦慮の種とあり解る氷を詠めては何如あさんと後悔の涙に袖を縮るか如く土臺の壽福を築ずして只徒らに浮草を愛し水月を翫ぶが如く墓なき願の神詣て夢の樣なる利益をは嘻しがりての寺參り老若貴賤をしなべて邪神死佛を戀慕ひける有樣は大人氣もなき戯れごと實に迷醉深き濁惡世なるらんと思へば氣の毒不便あり故に今顯本法華の本經たる壽量品の一文を揭て我國民に壽福萬歳の大緣を結ばん經云然善男子。我實成佛已來。無量無邊百千万億那由陀劫云々此文は華嚴經阿含經淨名經大日經大集經般若經無量義經法華經迹門等の一切大部の大小乘の諸經に於て教主釋尊の御壽命の短命の樣に說き如來も無常を免かれざる旨を示されたるを唯一言に大虛妄と破りたる金言にして實には我れは(教主釋尊)無始の古佛にして不老不死の如來也と說き顯したる經意なり又云我本行菩薩道所成壽命今猶未盡復倍上數云々此文は盡ざる菩薩の壽福を以て盡ざる佛の壽福を況顯し給ふ何となれば圓頓の實佛は九界を捨離せず十界具足の圓躰なるが故釋尊御身躰に備へ玉へる九界の壽命を所具の菩薩一界に寄て說き顯し給ふ而るに其壽命の久遠無始なるあと五百塵點劫に倍せり況や能く其九界を領修る佛界釋尊の御壽命久遠無始なるあと論を俟ずと云ふ經意也又云く

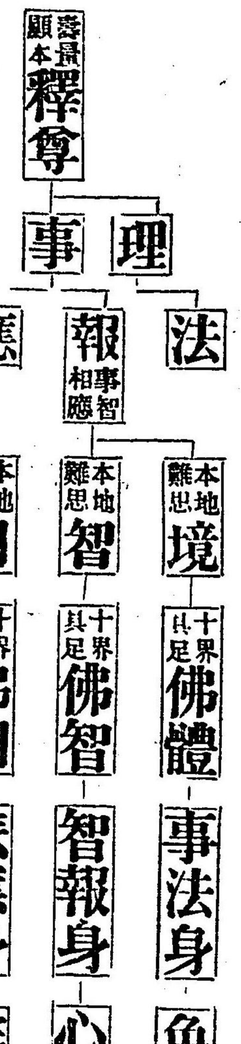
衆生を度せんか爲の故に方便して涅槃を現ず而も實には滅度せず常に此に住して法を說く已上此文は非滅現滅と申て衆生に渴仰の善心を發さしめん爲に假に入滅の皮相を示すを方便の涅槃と申す而れども實には入滅せざる故常に靈山に住居すと申經意なり故に此金言を疑はず一心に佛けを見奉らんと欲し强盛の大信力を起し我身を惜まず戀慕する人には何時なりとも値遇すると釋尊自ら御契約遊ばされたり其金詔に曰時我及衆僧俱出靈鷲山云云天台云く靈山の一會儼然として未だ散せずと釋せり又信心の中に於て三法を見奉ることを得ると云へり不妄語の金約豈信せさらんや

右金說に於ては釋尊一佛の御勸めたりと雖とも無虛妄の佛舌を以て慇懃鄭重に說き示されたれは疑ふ處少しも無きことなれとも末世濁惡の衆生は邪曲疑念深ければ本佛の實說を信せずして惡道に墮落せんことを氣遣玉ひて十方の諸佛を召集め壽量品にして顯本の實說を聽聞せしめ給ひしに恆河沙よりも多き無量の諸佛一佛も異議なく無虛妄の廣長舌を出して眞實なる證明に備へられたり宗祖聖人下山御書に此れを判して言く十方の諸佛は各各國國を捨て靈鷲山虛空會に詣て給ふて寶樹の下に坐して廣長舌を大梵天に付け給ふ無量無邊之虹の虛空に立並ふが如し乃至實には釋迦多寶十方の諸佛壽量品の肝要たる南無妙法蓮華經の五字を信せ令んが爲に出し給ふ廣長舌也已上譬は國王と后皇と閣官と一同して誓約せる

が如し然る上は日は西より出るとも潮の満干ぬ時は來るとも此金言の空しく成ること有る可からず若し千に一つも壽量の金言空しくなり釋尊入滅し玉はゞ一切の佛けは世尊にあらず衆生を誑す大惡妖魔の首魁なり其罪提婆よりも深く永く無間地獄の炎ふに燒れ給ふらん而るときは是より疎き神の誓や佛の願は泡沫よりも墓なく遊女の約束の如き物なれは總て神佛の勅諚は野狐の業よりも妖怪の言よりも甚しき世界の害物と成べし何如でか左樣の不都合ある可きぞ三千年來三國の皇帝及聖賢の人々皆佛語を貫重して金言勅語格言と仰がれたるは佛け未來記歳月を逐て符合するが故なり季札と申賢人は心の約束を違へずして王の重寶たる劍を徐の君が塚に懸れり又焚於期と申人は我頸を切て荊軻に與へて友の約束を違へざりし也此等は凡夫なれ共約せし言を食ざること是の如す況んや大慈大悲主也師也親也三德圓滿の大世尊一代出世の本懐として日と月と衆星と並ぶが如き明々たる三佛列座の公場に於て顯本し玉へる壽量の金言に於てをや大地を的に箭を放つて外るゝを有とも壽量の金言の違ふこと有べからず深く信じて努々疑ふ勿れ而るに近來壽量品を習ひ讀む者自己の凡情を以て不可思議の妙法を邪推し壽量教主の釋尊は生ずべき始も無く死すべきも終も無く火に燒ず水に朽ず壽命無量也と說れしは心法のて也此を法身とも法性とも本覺とも眞如のとも無相の極理とも名づく云云又過時方便の天台流に惑著する人の云く釋尊の壽命無量福

と心法の極理を悟り得たる智惠のこと也此智惠は常ゐ心法と冥合して離れず故に滅亡せず此を報身とも般若とも云ふ經ゐ惠光照無量壽命無數劫と說も是也云云此等の義は壽量品の意を殺し目出度功德を隱す日蓮宗信者の最も怖るべき惡知識なり假令大學者の名聞ある共大僧正の緋衣輝く共決して此等の寃說に惑ふ可からず高祖魂魄を留められ一開目鈔ゐ云く雙林最後の大般涅槃經四十卷其外法華經前後の諸大乘經一字一句ともなく法身の無始無終は說けども應身報身の顯本は說れず如何が廣博の爾前迹門本門涅槃等の諸大乘經を捨て、但涌出壽量の二品ゐ付べき已上此御判は應身報身の顯本は隨自意究竟の極說ゐして二品を除て餘の一切經に曾て說かざる秘法ゐをば容易に信し難き義を示し給ふ也御文の中ゐ法身とあるは彼の寃僧が云ふ心法也又報身とあるも戒定惠等の修德積り聚り自受法樂の大愉快を感ずる善報の念慮也又應身とあるは衆生に應同して或時は紫摩金色の佛相を現じ或時は和光同塵と申て九界の形相を自在ゐ現じて衆生を濟度し玉ふ大慈大悲の應現身也此三身は無始久遠の大昔ゐより前後なく同時に證得し給ふ釋尊なれゞ亦未來も無終にして三身の壽命俱ゐ盡る時有るべからず無始の始より三身は前後なく無終の終まで三身は壽命長短なき也高祖聖人は此旨を示して應身報身の顯本を說ざる諸經は方便なれば信じ易し三身俱の無始無終を說きたる涌出壽量の二品ゐ實說なれは信じ難し難きを信ずる故功德廣大也と云

ふ義を判じ給ふ也(但し顯本と無始無終と同じ義也)當に知べし三身は鼎の如く珠と光と價と始終離れざるが如し而らば三身の壽命俱ふ常住にあらずんは壽命不盡の金言も泡沫あり三身中一身滅するは自ら三身悉く滅するは理の當然あり何ぞ壽命常住の義成立せんや故に日什正師は本地難思之境智用無作三身之色心業也と示し給へり



蓮祖の所謂應身報身の壽命常住を顯說せしが壽量品の諸經ふ秀でたる規模とし玉ふ義能々右の圖を見て考へ辨ふべしとれば本佛釋尊が不老不死の御德とは十界具足の御身體も十界具足の御智惠も十界具足の御相形も俱に皆常住不滅の御佛也必らず他師の言ふ如き物に非ざる也若し誤つて彼の惡知識に誑かされあは目出度壽福の御功德は忽ち隱れさせ給ふて折角壽量品よ値奉りたる甲斐も無く第一の珍寶たる壽福土臺の快樂を獲得するを得ざる也末世には惡鬼入其身と申て導師ふも信者ふも天魔潛み入つて壽量品の功德を押へて衆生の幸福を謀り奪ひとする也師子身中の蟲獅子の肉を食ふと御遺訓ありしは是也愼むべし恐るべし高祖御直撰の祈禱經に曰く我不信を以て金言を疑はざれ若其れ信心强盛にして深重なれば息災延命決定得樂ならん云云大聖の嚴誡肝に銘ずるなり返す々々も深く信心を取り玉ふべし聖德太子釋氏十七憲に曰く震旦の大德梵經を釋して甚だ理解して正體を失ず還て妄りに遇言と成す佛は聖中の聖何ぞ虛誕を說ん又神中の神造り語を成こと無し佛說は眞實之眞なり事の事に如ざるを說こと無し頻りに理解するときは則ち妄に落つ又曰く僧と爲ては深く古佛の在處を尋ね見よ報佛報土無しと云ふこと無れ或は理解して他に古佛無し自性是なりと謂ひ又諸佛は是れ理の名其人無しと謂ふ若成佛の人無んは汝ぢ悟て何者とか成らん又佛に感應有るは諸理なり己心の作なりと謂ふ是因果撥無の見耳須らく信に住して諸佛三身の境界を見るべし(已上憲法)此れは法身常壽を立て丶心法のみを佛と思ひ三身を信せざるものを邪見妄見と誡め玉ひし也若し不信にし疑感を懷き壽量顯本の金言を輕蔑し誹謗の念を起さば阿鼻獄と申す大惡道に墮落して死しては生じ生じては亦死し一日のうちに幾度も死に活する至極短命の報を受け而して其死亡は每々に責め殺さるゝことなれは其苦痛譬へん方おき嚴苦なり釋迦佛は此獄の苦を委しく說かは聞者血を吐て死する故委しく說かずと仰せられたり且つ一度是地獄に落入なは其期限の永きこと無量劫にして脫期を側る能は

ず此は是聖中の聖神中の神たる三世了達の釋迦佛久遠劫より已來度々實驗の上聖語を以て示されたる義なれば介爾も相違あること無し是則ち回果應報の規なれば脱れ難し例せば富者を嫉んで貧窮の報を受け美人を憎んで醜き姿を受け智人を謗て愚鈍の者と成るが如く長壽の金說を疑謗せるが故短壽の惡報を感得する也將た我有自由及金剛樂等の功德ある顯本の妙法なる故是に背いて永遠無期の獄中に入し身は不自由不愉快極まる憂苦を感得することと疑なし噫噫自業自得のことなれば何如に苦るしく共誰れをか恨みん只後悔の血涙潸然として袖を濕すのみ恐るべし悲むべし是は惡因に報ふ惡果なるが亦是より已前に花報と申て現今に凶災を受ること是あり則ち法華經に說て云く若し人有て之を輕毀して言ん汝は狂の人ならく耳空しく是行を作て終に獲る所ろ無し是の如く○罪報は當に世世に眼無るべし○若し復是經典を受持する者を見て其過惡を出さん若は實にもあれ若は不實にもあれ此人は現世に白癩の病ひを得ん若之を輕笑すること有んは者は當に世世に牙齒疎缺醜き脣平なる鼻手脚繚戾し眼目角睞に身體臭穢にして惡瘡膿血水腹短氣諸の惡重病あるべし已上（右經中ゝ之の字二所あり其指す所は持經者なり意を注めて經を窺ふべし）

涅槃經第五に云く若人有て如來は無常と言ん云何ん是人舌隨落せざらん云云妙樂大師の云く舌口中にたゞるゝは猶是華報なり謗法の罪苦長劫に流る云云此は是譬は惡しき菓を結ばんとして惡しき花の咲か如し但し此華報を受る人と受ざる人との二種あり一は現世にて忽ち謗法の心を醜して信心に入るべき人此れは罪障の淺き者也此一類と亦極々強き誹法の人例せは提婆守屋良觀の如く正法の流布を妨害する者とに華報を受ること多くあり二は不信謗法の惡人なれ共宿罪深くして當底現世一旦の中に飄るべき人に非ざる一類にして亦左のみ正法の流布を妨害そること無き者には或は華報なくして直に惡道に落ることあるなり而れ共又免れ難き花報あり人は皆定業と申て生るゝ時既に一期の壽命定りたり其中を幾分か削り縮むること必定なり罪の淺きと深きとに因て或は一年二年乃至十年二十年等の減壽の殃禍を招く耳ならず鬼魅に著せられ且亦身の上の束縛心の上の束縛及病毒に早く感する等種々の不幸を招くなり是の如く等の不愉快を常に感するは皆自業自得の花報なれは瞋るとも悔るとも是非なきこと也少しくも衛生の大事を思へは一時も早く顯本壽量の妙法を信ずべきこそ本意なれ人中社會に英ひ多しと雖も我命數を削縮むる程の不幸は餘に有るまじき也又是れに反して喜ばしきこと有り顯本壽量の妙事を深信して終に不老不死の大果を得る人は近く現世に於ても愉快の華報を得る也夫は我等誕生の時より報命と申て定まりある命數を延長するを云ふ既に佐渡の國に於て高租聖人の御化導を受て壽量品の妙法を深く信する中興入道と申す人あり此人或時所信の妙法を書寫して先亡の追善を營まれしを宗祖は大に歎し玉はく去りぬる幼子の娘御前の十三年に六丈の卒塔婆を立て

、其面に南無妙法蓮華經の七字を顯して御坐せば北風吹は南海の魚鱗其風に當て大海の苦を離れ東風吹は西山の鳥鹿其風を身に觸れて畜生道を脫れて都率の內院に生れん況や彼の卒塔婆に隨喜を成し手を觸れ眼に見まいらせ候人類をや過去の父母彼卒塔婆の功德により天の日月の如く淨土を照し孝養の人並に妻子は現世には壽を百二十年持て後生には父母と俱に靈山淨土に參り給はん事水淸は月寫り皷を擊は響の有るが如しと思し召し候へ云云

此より後の御卒塔婆にも法華經の題目を顯し給へ已上御判の中に水に月皷に響の二種の譬を擧玉ひしは自業自得の道理を示されたるもの也是入道は不老不死の題目を書顯して精靈の追善を行ひし故其善果としては孝子其人は終に父母と共に靈山淨土に居住する身となり長壽萬歲の大果を得べき善人なれは早現世にも好き華報顯れて百二十まで生き永らへ給ふことは決定して疑ひ無けれは水の淸に月の寫らざる事なく皷を擊に響の非ざる事なしと因果確實の理を推して喩し給ふ也亦復月漢和三國に於て延壽の華報を受たる人を示して曰く阿闍世王は父を殺害し母を禁固せし惡人也然りと雖とも涅槃經の席に來て法華經を聽聞して現在に惡瘡治するのみに非ず四十餘年の壽を延引せり亦曰く阿闍世王は御年五十にして二月十五日に大惡瘡身に出來り大醫者婆の力も及はず三月七日に必ず死して無間大城に墮べかりき五も餘年の大樂一時に滅して一生の大惡三七日に集れり定業限り有りしかども佛

法華經を重て演說し涅槃經と名づけて與へ給ひしかは大王身瘡忽に平愈し心の重病一時に露消す佛滅後一千五百餘年に陳鍼と申人あり短命の相有て五十年に定り候を天台大師に値奉りて十五年の命を延へ六十五まで御座す其上不輕菩薩は更增壽命と說れて法華經を行じて定業を延ぶ乃至されは日蓮悲母を祈りて候しかは現身に病ひ愈るのみならず四箇年の壽命を延たり今女人の御身として病を身に受させ給試に法華經に信心を立てゝ御覽あるべし已上此外に延壽の華報を受し人多分あれ共當時聖人なきが故誰れ有て明白に告け知す人なけれは世に顯れて傳はらず彼の不輕菩薩阿闍世王陳鍼蓮母の如きは幸ひに其當時に釋尊天台日蓮等の聖者あつて確實に之を示し給ふ故末代まで歷史に傳りたり其他の利益を受て延壽したる多くの人々は唯自分のみ少しく感たる人もあり亦一向に知らずして冥益を既に受て居る人もあり唐の法華傳記等には往々年號及び名前等の記されたる人候而れとも之を畧す同じ原因を修して同じ結果を得と申道理は誰か是を疑ふ者あらん昔も今も因果應報の規則は異るべからず既に彼の人々は壽量品の妙法を信じて延壽の花報を受たれは亦今日とても同じ壽量品の妙法を信じて同じ延壽の花報を得る事に毫も疑ふ處有るべからず若しからずと云はゝ昔は水淸で月寫れ共今日では水は淸とも月は寫らずと云ふが如し何でか左樣なる不法不道理あるべきや信の厚きと薄きと罪障の淺きと深きとに依て差別ありと雖も必

定して或は一月二月百日千日萬日等の延壽益を受ること疑なし水清は昔も今も同じく月は宿るが如く鼓を擊ては何時とても響の有るが如し深く信心を發起し增進して此の妙益を獲得せよ併し此は唯華報の一分にて候況や信行成就の曉に至り眞實の不老不死の益を得て十法界は我が所有と成り身體は自由自在に變現することを得身も土も心も淸淨にして金剛不壞の大愉快大幸福を得る時は其喜び何如ばかりぞや壽量品に云我此土は安穩にして天人常に充滿せり園林諸の堂閣種々の寶を以て莊嚴せり寶樹華菓多くして衆生の遊樂する所なり諸天天の鼓を擊て常に衆の伎樂を作し曼陀羅華を雨して佛及大衆に散ず已上又御妙判に曰く在家の御身は唯餘念なく南無妙法蓮華經と御唱へ有て供養し給ふが肝要にて候○世の中物うからん時も今生の苦さへ悲しゝ況や來世の苦をやと思食ても南無妙法蓮華經悅ばしからん時も今生の悅は夢の中の夢靈山淨土の悅こそ實の悅なれと思食し合せて又南無妙法蓮華經と唱へ退轉なく修行して最後臨終の時を待て御覽せよ妙覺の山に走り登りて四方をきつと見てあればやら面白や法界は寂光土にして瑠璃を以て地とし金の繩を以て八の道を界へり四種の華ふり虛空に音樂聞へて諸佛菩薩は常樂我淨の風に（上に示したる顯本の妙法に四つの功德を含めるを是と合見すべし）そよめいて娛樂快樂し給ぞや我等も其數に列つて遊戲し樂しむへき事はや近づけり信心よわくして斯る目出度所に行べからず行べからず穴賢穴賢當に知るべし

仮令法華經を信ぜる人よても疑ひを挿み壽量の金言を信ぜず高祖の敎の御遺書を用ひざる僻信妄信の輩は戸を閉て月を詠めんと欲ぜるか如し佛力も法も宿り玉わず不老不死の花報も果報も受くべき理なし嗚呼いと惜し請願くは異躰同心の同朋よ我慢偏執の邪見を去り名聞利養を抛ちて壽量品の肝心たる顯本不思議の南無妙法蓮華經を信ずべし壽福は實に千萬金よも替へ難し喜ふべー決定信心なす人は下女が王種を胎が如し末たのもしき身分なりあら有難や大慈大悲の釋迦牟尼佛濁世の我等を濟わん爲め壽量品を演說して不老不死の妙法を開顯し本化の菩薩を勅使として日本國の人民ゟ遺物として送り給ふ其御使は日蓮聖人と我國ゟ降誕し流罪死罪の大難を忍ぶて末法の衆生ゟ授與せられ候也所詮今身より佛身に至るまで一切其身を法華經ゟ任せ深く壽量品の金言を信し奉り南無妙法蓮華經と唱へる人こそ我國の寶珠我家れ柱ら我身の壽きあるべけれ

顯本の　敎の雨に　沾ふて　法の蕾を　結ひそめ頓て延壽の　花ひらき　妙の薫りの
身に濕て　あら有難と　合ゞ手ゟ　又もや結ぶ　蓮の菓　不老不死とゞ　顯れよける

明治二十五年五月　日

顯本の華菓終

深達院妙相日照信女靈
小島家先祖累代諸精靈
並親類一家一門諸精靈
先亡後滅十方法界萬靈
薦千出離生死證大菩提

明治二十七年七月三日
深達院三回忌追善の爲
め廣く諸人に施本す

施本人　小島傳次郎
東京市日本橋區小傳馬上町三番地

施本人　見原ひて女
同浅草區馬道町二丁目二十四番地

明治二十七年七月二日印刷
明治二十七年七月十日發行

非賣品

著作者　小林日至
東京市浅草區新福井町三番地寄留

印刷人兼發行者　小島傳次郎
東京市日本橋區小傳馬上町三番地

特56
961

019919-000-0

特56-961

顕本の華果

小林　日至／著

M27.7
ABH-0027